

数 学

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

※第4問は「数学Ⅰ・数学A」または「数学Ⅱ・数学B」のどちらか選択

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	数学Ⅰ・A 数と式/整数の性質/データの分析	標準
	第2問	数学Ⅰ・A 図形と計量・図形の性質	標準
	第3問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 図形と計量・図形の性質/確率	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 複素数/図形と方程式/微分法・積分法/ベクトル	標準
2/4	第1問	数学Ⅰ 集合と命題	標準
	第2問	数学Ⅰ 数と式/実数/データの分析	標準
	第3問	数学Ⅰ・A 図形と計量・図形の性質	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 二次関数/場合の数/確率	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 図形と方程式/微分法・積分法/数列	標準
2/5	第1問	数学Ⅰ・A 数と式/集合と命題/整数の性質	標準
	第2問	数学Ⅰ 2次方程式	標準
	第3問	数学A 場合の数/確率	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ データの分析/図形と計量	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B ベクトル/図形と方程式	標準

試験時間は2科目で120分なので、1科目にかけられる時間は概ね60分である。出題形式は、全てマークシート方式で、大問を4題解答することになる。第1問～第3問が必答で【数学Ⅰ・数学A】からの出題、第4問が【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B】の2題から1題を試験会場で選択解答する問題になっている。2020年度入試では、第1問・第2問・第3問の順に、2月3日：小問集合（3問）・単独テーマ問題・単独テーマ問題、2月4日：単独テーマ問題・小問集合（3題）・単独テーマ問題、2月5日：小問集合（3問）・単独テーマ問題・小問集合（3問）で構成されている。第4問（選択問題）は、いずれも問1、問2に分かれ、例年は、それぞれが中間形式の単独テーマ問題になっているが、2020年度は、2月3日の【数学Ⅱ・数学B】の間1が小問集合形式の出題になっていた。

【数学Ⅰ・数学A】については、難易度は、2018年度までは、やや易～標準のレベルであったが、2019、2020年度と2年続けてやや易の問題が減り、ほとんどが標準レベルであった（今後、この傾向は続くと思われる）。また、出題範囲の偏りは無く、バランスの良い出題になっている。ただし、問題によって、計算量が多く、試験時間内で全問を解答するためには、時間配分が重要になってくる。特に、「データの分析」からの出題には計算が伴うので注意が必要である。

選択問題の【数学Ⅱ・数学B】については、難易度は標準レベルである。出題範囲は、問1、問2の一方が数学Ⅱ、他方が数学Bから出題されている。なお、数学Ⅱについて、2019年度は2日程が小問集合問題であったが、2020年度は1日程であった。

数 学

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

概ね60分の試験時間で大問4題の構成は、旧センター試験と類似しているが、試験時間に対して問題量は多めのため、時間配分を含めて対策が必要である。

●基礎固めから始めよう

梶山女学園大学の試験問題は、基本的な標準レベルの問題が中心であるため、教科書の内容をしっかりと理解し、定理や公式が正確に使えれば十分攻略できる。まずは、基本事項の確認からスタートしよう。教科書傍用問題集の基本問題（ベーシックレベル）を中心に解くことで、各単元の基本事項（基本性質、基本定理・公式）の理解ができていくかチェックできる。不完全な部分は教科書に立ち返り確認するようにしよう。教科書の該当箇所を、例題も含めしっかりと読み込んで理解することが重要である。わからない部分があれば、学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧になる。わからないままにしておくことは最も危険である。

●実戦力を身につけよう

次に、実戦力を身につけよう。小問集合形式（第1問や第2問）の問題については、市販の問題集（小問集）でのトレーニングが有効である。単独テーマ問題については、旧センター試験の過去問や、マーク試験対策用の問題集（大学入学共通テスト対策の問題集も可）を演習することで、実戦力に磨きをかけたい。また、模擬試験の解き直しも有効である。

梶山女学園大学では、「データの分析」からの出題が多くみられる。「データの分析」については、高校の授業で演習量が少ないため苦手とする受験生が多い。問題集によっては扱う量も異なるので、参考書の例題などを活用すると良いだろう。旧センター試験「数学①」で（「数学Ⅰ・A」ではなく）「数学Ⅰ」の過去問を（問題のボリュームが大きいので）演習することも有効である。

近年の入試傾向の一つに「計算力を試す」ことがあげられる。計算力は、普段の努力がそのまま表れるものなので、毎日、わずかでも良いから計算のトレーニングは欠かさないでほしい。

●最後に

梶山女学園大学の入試では第4問が【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B】からの選択問題になっている。そのために、数学Ⅰ・数学Aのみの学習で受験することが可能であるが、数学Ⅰの数と式、二次方程式については、数学Ⅱの式と計算、複素数と方程式を学習している方が有利である。予め数学Ⅰ・数学Aのみでの受験を考えている受験生は注意してほしい。

最後に、過去問の演習を通して、大問の解答の順番や、大問ごとの解答にかかる時間のシミュレーションを組み立てておこう。特に、第1問（または第2問）は小問集合なので、問題量が多い。ここにかかる時間のシミュレーションができていれば他の受験生とは確実に差がつくはずである。

ここまでの準備が整えば、結果は必ず伴ってくる。健闘を祈る。